

## 水資源機構 低入札価格審査委員会 審議概要

平成22年度第3回低入札価格審査委員会については下記の通り書類の回議をもって審議が行われ、調査結果等については了承された。

日 時：平成22年10月26日及び28日

### 委 員

委員長 小澤 一雅 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻 教授  
尾野村 祐治 ジャーナリスト  
高田 敏明 弁護士

(五十音順敬称略)

### 議 事：【豊川用水二期西部幹線水路長山サイホン改築工事の調査結果及び対処方針について】

調査結果等：低入札価格調査制度における重点調査を評価値第1位から第6位の者について併行して行った。その結果、評価値第1位及び第2位の者については、直接工事費や現場管理費に未計上が確認されたり、提出されない見積書や明細書があり、妥当性について確認できない費用があったことなどから、当該契約の内容に適合した履行がされるとは判断できなかった。これに対して、評価値第3位の者については、以下の理由から当該契約の内容に適合した履行がされると判断できた。

直接工事費の大半を占める工種（管体工、鋼管挿入工等）の調達予定価格が低かったが、これについては、大手鋼管メーカーの鋼管材料及び施工費の見積があり、特段の不備は無く、適切に積み上げがなされている。その他の工種についても問題はなかった。また、建設副産物処理に関しては、見積書及び受入許可書が添付されており、法令遵守の体制が明確であった。現場管理費等には諸経費及び技術提案費用が適正に計上されていることが確認できた。一般管理費については、計上漏れの項目は無く、必要最小限で実施が可能な額であることが確認できた。

したがって、評価値第3位の者を落札者とする。

### 審議の概要

- ・直接工事費等に未計上な費用が見つかった場合に、一般管理費から充当するという業者の回答を安易に認めるべきではない。一般管理費は適切に計上される必要があると考える。
- ・重点調査の結果、契約内容に適合した履行がされると判断する場合は、工事費全体について問題の無いことが確認できたということの十分な説明がなされる必要があると考える。

- ・今回、低入札が多く出たことの背景には、公共工事の発注量の減少があると思う。日本の経済状況を考えると今後も減少すると思われるが、業者の淘汰を市場経済に任せていると、その過程で好ましくない社会現象が起こる。機構としても、海外で仕事をしやすくする助成策や計画的な雇用調整の結果生じる余剰な人員や能力をどうするかを政府とともに考えるべきではないか。個々の人間がスキルアップをして、未来の生活に希望を持てるようになるプロセスが必要である。人間は苦勞が多くても明るい展望があれば頑張れるものである。